第１学年１組　国語科学習指導案

１　単元名　　くちばし

２　児童の実態と本単元の意図

本学級の児童は、平仮名５０音を読んだり、簡単な文章を書いたりすることができる。「あさの　おひさま」を学んだ際に音読を行ったが、今回は分量が多い上に文を書く際にまだ文字の誤りがあることも考えて、音読の際は一言ずつ丁寧に読む指導が必要である。音読に加え、新たに学習する拗音についても既習の促音と共に定着させることが課題である。

本教材は、児童が初めて扱う説明的文章である。３種類の鳥のくちばしの特徴とそのくちばしを持っている鳥は何でしょうという「問い」とその「答え」という構成となっている。

本単元を指導するに当たって、小学校学習指導要領の第１学年及び第２学年の「Ｃ　読むこと」の指導事項「イ　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」を中心に指導を行っていく。そのために、本文の音読やワークシートを使って教科書の本文を書いたり、ワークシートを使って「問い」と「答え」の構成となっている文章を考えて書いたりする。これにより、説明的文章の構成を理解することができるようにする。

本時では、まず全文を読み流れを把握する。３種類の鳥が出てきていることを確認し、本時では３種類のうちの１種類であるキツツキについての部分を取り扱うことを伝える。また、全文を読むことで、次の活動である「問い」と「答え」の文があるということに気付きやすくすることができる。後半の時間では、具体的な内容をおさえながら「問い」と「答え」という形式をおさえていく。

３　単元の目標

（１）　文章の内容や「問い」と「答え」という形式に興味を持って読もうとしている。
（関心・意欲・態度）

（２）「問い」とそれに対する「答え」の文をとらえている。　（読むこと）

（２）　敬体の文章に慣れると共に、助詞「は」を文の中で正しく使っている。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）

４　単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

	ア　国語への関心・意欲・態度	エ　読む能力	オ　言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・文章の内容や「問い」と「答え」という形式に興味を持って読もうとしている。	・「問い」とそれに対する「答え」の文をとらえている。	・敬体の文章に慣れると共に、助詞「は」を文の中で正しく使っている。

学習活動に即した評価規準	①くちばしの働きについて興味を持って読んでいる。 ②「問い」と「答え」という形式を考えながら読もうとしている。 ③自分の知っている鳥について考えたり発表したりしようとしている。	①鳥のくちばしの形や絵などを順序に気を付けながら読んでいる。 ②「問い」と「答え」という説明の順序や内容を、正しく捉えて読んでいる。	①自分のよく知っている生き物について「問い」と「答え」の文を考え、その際に助詞「は」を文の中で正しく使っている。

５　指導と評価の計画（全７時間扱い）本時２/７時

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○教科書の写真を見たり文章を読んだりして、「くちばし」に興味を持ち。３種の鳥のくちばしの文章であることを読み取る。	・内容の大体のとらえ方	アの①・エの① ・発表の内容や態度による考察
②	○きつつきのくちばしに関する部分の文章について、写真と文を照応させながら、「問い」と「答え」の文を確かめて読む。	・写真との照応の仕方 ・「問い」と「答え」の文	アの②・エの② ・ワークシートによる考察 ・発表の内容や態度による考察
3	○おうむのくちばしに関する部分の文章について、写真と文を照応させながら、「問い」と「答え」の文を確かめて読む。	・写真との照応の仕方 ・「問い」と「答え」の文	アの②・エの② ・ワークシートによる考察 ・発表の内容や態度による考察
4	○はちどりのくちばしに関する部分の文章について、写真と文を照応させながら、「問い」と「答え」の文を確かめて読む。	・写真との照応の仕方 ・「問い」と「答え」の文	アの②・エの② ・ワークシートによる考察 ・発表の内容や態度による考察
5	○本文の「問い」と「答え」の表し方に即して、自分のよく知っている生き物についての文を書く。	・「問い」と「答え」の文の書き方	アの③・オの① ・ワークシートによる考察
6	○自分のよく知っている生き物について「問い」と「答え」の文を書いたり発表したりする。	・「問い」と「答え」の文の書き方	アの③・オの① ・ワークシートによる考察
7	○図書館で生き物の本や図鑑を見付けて読む。	・本の選び方	オの① ・発表の内容や態度による考察

６　本時の学習指導（本時２/７時）

（１）　目　標

○「問い」と「答え」という構成について、説明の順序や内容を正しく捉え、読むことができる。

（２）　評価規準（１時間の授業に即した具体的なもの）

アの②	エの②
②　「問い」と「答え」という形式を考えながら読もうとしている。	②「問い」と「答え」という説明の順序や内容を、正しく捉えて読んでいる。

（３）　展　開（○は指導上の留意点_____内は評価を表す）

学　習　活　動	学　習　内　容	指導と評価の創意工夫	時間
１　本時の学習課題をつかむ。 ひとつめの　くちばしのはなしをくわしくよもう。	・本時の学習課題	○本時の学習に意欲的に取り組めるようにすると共に、問題意識を高める。	５´
２　全文を皆で音読する。	・本の読み方	○本を読む時の姿勢や本の持ち方について意識させる。	５´
３　きつつきのくちばしについての文章が、「問い」と「答え」という形式になっていることを知る。 《出させたい内容》 ・問題は「これはなんのくちばしでしょう。」のところです。 ・答えは「これは、きつつきのくちばしです。」のところです。	・本の読み方	○きつつきのくちばしについての文章を読む際は、「問い」と「答え」の部分で役割を分けて読むようにする。 ○疑問符である「？」をつけることができる場所を探しその理由についても質問することにより、文のまとまりや、「問い」の文の後に「答え」の文が来るという文型を意識することができる。	１０´
４　挿絵・写真と文章を照応させながら、きつつきのくちばしの特徴を理解する。	アの②「問い」と「答え」という形式を考えながら読もうとしている。 エの②「問い」と「答え」という説明の順序や内容を、正しく捉えて読んでいる。 （ワークシートによる考察）（発表の内容や態度による考察） 「問い」と「答え」の部分を特定することができれば、「おおむね満足できる状況である」と判断することができる。		１５´

	・内容の読み取り方	《手立て》 ・「問い」や「答え」の部分が分からない児童には、「問い」とは何かを尋ねるときの言い方であると助言することで、「～でしょう。」という文末表現に注目させる。	
5　「問い」の文と「答え」の文を視写する。		・「問い」や「答え」の部分が分かる児童には、各文に書かれていることは何かを考えさせる。	５´
6　本時のまとめを行う。	・本時のまとめ	〇本時のまとめを行う。	５´

7　備　考　　在籍児童数　　　３５名

8　板書計画

ひとつめの　くちばしの　はなし
を　くわしくよもう。

もんだい

これは、　なんの
くちばしでしょう。

こたえ

これは、きつつきの
くちばしです。